



# とどけ 夢 未来へ

- DREAMING -



やなぎさわ としや  
柳澤 紀哉くん

● 出流原小6年 ●

## ぼくと父と祖父

ぼくの夢は、大工になることです。

ぼくの家では、祖父と父が大工をやっています。働いている二人の姿は、とてもかっこよかったです。だから、ぼくはそんな二人を尊敬しています。それで大工になりたいという夢を持つようになりました。

大工の仕事は大変そうだけれど、家を建ててもらった人の喜んだ顔が見たいです。ぼくも大工になって、父や祖父と一緒に家を建てるのがぼくの夢です。

## みんなの広場に 出してみませんか？

「キラリ★話題の人」「すてきな仲間たち」「めあと人生」（「すてきな仲間たち」「めあと人生」は隔月で掲載します）に登場していただける方を募集しています。自薦・他薦は問いません。詳しくは、政策調整課広報広聴係（☎(20)3037）へお問い合わせください。

## めおと人生

よしお  
篠崎 義雄さん (79歳) 田沼町  
モトさん (77歳)



- Q「結婚何年目ですか」  
A「昭和29年に結婚したので、今年で55年目になります」
- Q「これまでで印象に残っている出来事は」  
A「まだ子どもが幼い時、仕事の無理がたたって入院することになり、これからのことを考え二人で病室で泣いたことですかね」
- Q「カナディアンロックス」  
A「キーの水河に立ち、大自然の雄大さに、自分分は生きてる」と胸が熱くなった事です」
- Q「夫婦円満の秘訣は」  
A「毎朝挨拶を交わして、互いの元気を確かめ合う気遣い。それから、笑って一日を過ごせる」

## 感謝の気持ちを忘れずに

- Q「今後の抱負は」  
A「墨絵やグラウンドゴルフなどの趣味をずっと続けて、元気な日々を過ごしたいですね」
- Q「若い人たちへのメッセージを」  
A「二生懸命働いて、余裕を持って現役を退ける心がけを持つと良いですね」
- Q「思いやり、感謝する気持ちを忘れない義雄さん、モトさんご夫妻、これからもお幸せに。」

# キラリ★ 話題の「ひと」

「お客様の心に残る停車駅」を目標に



株式会社どまんなかたぬま  
代表取締役社長

しのはら としひで  
**篠原 敏秀**さん

昭和20年生まれ。  
明治大学商学部卒。  
㈱東武宇都宮百貨店において、営業部・宣伝部・販売促進部を始め、数々の部長職を歴任した。  
平成13年11月、道の駅どまんなかたぬま支配人に就任、平成19年6月に代表取締役社長に就任、現在に至る。

また、道の駅が日々成長していくことができる秘訣を尋ねたところ、「私たち従業員は、常にお客様によつて磨かれていきます。お客様のご意見を素直に、そして親身に聞き入れることで道の駅も磨かれていきます。これからも、お客様のニーズを把握しながら成長し続けていきたいです」と、長年、百貨店で培ってきた営業力が、道の駅躍進

「商品では、地元産の新鮮な野菜や物産品を中核とし、飲食でも、地元産の材料を使い郷土料理を提供していくことで、ローカルならではの味わい深い駅を作り出しています。リピーターとなる地元の固定客や、首都圏を始めとした遠方の観光客の心をつかむことがとても大切です」と、篠原さんは現在の状況を話します。

今年で8年目を迎えた「道の駅どまんなかたぬま」は、今月中に館内の中華レストランがリニューアルオープンすることもあり、市の観光拠点としてますます発展しています。この道の駅を当初から支え続けている、現社長の篠原さんは、地域ブランドを活かしながら「お客様にとつて魅力ある駅づくり」を目指し続けています。

を物語ります。

最後に、篠原さんは将来への展望について、このように述べています。

「道の駅が活性化することで、佐野市の経済に貢献できることが一番嬉しいことです。今後も、従業員一丸となつて道の駅を進化させていきたいです。佐野市には、数多くの観光名所が存在します。これらの名所と地域連携を図り、何度でも足を運んでいただける道の駅づくりを考えています。近年開通する北関東自動車道と東北自動車道が交わる交流拠点でもあり、必ず未来の可能性を秘めたエリアになります。その時に、道の駅が市の先頭に立てる役割を果たせたら最高の幸せです」

(市民記者 飯田 瞬)



ズラリと並ぶ地元産の新鮮野菜